

拒絶理由通知書

特許出願の番号 特願 2 0 0 5 - 5 0 3 6 0 2
起案日 平成 1 9 年 9 月 2 6 日
特許庁審査官 角田 慎治 9 4 6 6 5 J 0 0
特許出願人代理人 志賀 正武 (外 1 名) 様
適用条文 第 3 6 条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から 6 0 日以内に意見書を提出してください。

理 由

この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第 3 6 条第 6 項第 2 号に規定する要件を満たしていない。

記

(1) 請求項 1 の技術内容が不明確である。

備考：

請求項 1 には、「光信号を交換接続する光ノード装置であって、3 R 中継なしでデータ伝送できるあらかじめ設定された区間を 3 R 区間と定義し、自己が属する光ネットワークトポロジ情報に対応する 3 R 区間情報を保持する手段と、この保持する手段に保持された 3 R 区間情報を参照して自己を経由する光パスの設定に際して自己が 3 R 中継を実施する光ノード装置か否かを自律的に判断する手段を備える」と記載されているが、

どうして、単に「3 R 中継なしでデータ伝送できる区間」という情報である「3 R 区間情報」を参照することによって、「自己が 3 R 中継を実施する光ノードか否かを自律的に判断する」ことができるのか、請求項 1 に記載された事項に基づいて把握される発明において、当該「自律的に判断する」には、3 R 中継なしの区間を知ることに基づくだけでは、技術的に十分に理解できず、まとものあの一の技術的思想として把握することができない。

(2) 請求項 2 の技術内容が不明確である。

備考：

請求項 2 には、「この保持する手段に保持された前記 3 R 区間情報を参照して

自己が発ノードであるときに自己から着ノードまでの光パスが経由する他光ノード装置の中で3 R中継を実施する他光ノード装置を特定する手段」と記載されているが、

どうして、単に「3 R中継なしでデータ伝送できる区間」という情報である「3 R区間情報」を参照することによって、光パスが経由するノード装置のうち、「3 R中継を実施する光ノード装置」を特定できるのか、請求項2に記載された事項に基づいて把握される発明において、当該「特定する」には、3 R中継なしの区間を知ることに基づくだけでは技術的に十分に理解できず、まとまりのある一の技術的思想として把握することができない。

(3) 請求項3の技術内容が不明確である。

備考:

請求項3には、「この保持する手段に保持された前記3 R区間情報を参照して自己を経由する光パスの設定に際して自己が3 R中継を実施する光ノード装置か否かを自律的に判断する手段」と記載されているが、

どうして、単に「3 R中継なしでデータ伝送できる区間」という情報である「3 R区間情報」を参照することによって、「自己が3 R中継を実施する光ノードか否かを自律的に判断する」ことができるのか、請求項3に記載された事項に基づいて把握される発明において、当該「自律的に判断する」には、3 R中継なしの区間を知ることに基づくだけでは、技術的に十分に理解できず、まとまりのある一の技術的思想として把握することができない。

(4) 請求項14及び15の記載が不明確である。

備考:

請求項14には、「光パス設定要求に含まれる自己が3 R着ノードであることを示すメッセージを受けて自己が着ノードでないときには」という記載があるが、「自己が3 R着ノード」であるのに「自己が着ノードでない」とはどういう意味か、分からない。

あるいは、請求項14においては「3 R着ノード」と「着ノード」の意味の違いがあるのかも知れないが、記載上明確ではない。

また、請求項15についても、請求項14と同じ記載があり、不明確である。

(5) 請求項19には不明確な記載がある。

備考:

請求項19は、「光信号を交換接続する光ノード装置であって、自己が属する光ネットワークを管理する網制御装置に対して当該光ネットワークのトポロジ情報に対応する3 R区間情報の提供を要求して取得する手段を備えたhかりノード装置。」と記載されているが、上記下線部の「3 R区間情報」とは何を意味する

情報なのか、請求項 19 に記載された事項に基づいて、明確に把握することができない。

(6) 請求項 30 及び 31 の記載が不明確である。

備考:

請求項 30 には、「光パス設定要求に含まれる 3R 着ノードであることを示すメッセージを受けて当該光ノード装置が着ノードでないときには」という記載があるが、光ノード装置が「3R 着ノード」であるのに「当該光ノード装置が着ノードでない」とはどういう意味か、分からない。

あるいは、請求項 30 においては「3R 着ノード」と「着ノード」の意味の違いがあるのかも知れないが、記載上明確ではない。

また、請求項 31 についても、請求項 30 と同じ記載があり、不明確である。

(7) 請求項 48 及び 49 の技術内容に不明確な点がある。

備考:

請求項 48 には、「光信号を交換接続する光ノード装置であって、3R 中継なしでデータ伝送できるあらかじめ設定された区間を 3R 区間と定義し、」という記載があるが、その後の請求項 48 の記載においては、当該定義された「3R 区間」に関する記載はなく、上記定義が、請求項 48 に記載された発明において、どのような関わりをもつのか不明であり、請求項 48 の記載全体としてまとまりのある一の技術的思想を把握し難い。

また、請求項 49 についても、請求項 48 と同じ記載があり、同様に請求項 49 の他の構成とどのような関わりをもつのか不明である。

(8) 請求項 51、58、71、85 には不明確な点がある。

備考:

請求項 51 には、「当該初期値 P あるいは既に当該初期値 P から減算が行われた被減算値 P' 」という記載があるが、上記下線部の P' はなぜ生じるのか、どこから出てくる値であるのか、記載上明確ではない。

また、請求項 58、71、85 についても同じ記載があり、不明確である。

(9) 請求項 55、60、81、88 には不明確な点がある。

備考:

請求項 55 には、「当該初期値 p あるいは既に当該初期値 p に加算が行われた被加算値 p' 」という記載があるが、上記下線部の p' はなぜ生じるのか、どこから出てくる値であるのか、記載上明確ではない。

また、請求項60、81、88についても同じ記載があり、不明確である。

＜拒絶の理由を発見しない請求項＞

請求項（4－13、16－18、20－29、32－47、50、52－54、57、59、61－70、72－80、82－84、86、87）に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 I P C 第 8 版
 H 0 4 B 1 0 / 0 0 - 1 0 / 2 8
 H 0 4 J 1 4 / 0 0 - 1 4 / 0 8
 H 0 4 L 1 2 / 2 4

- ・先行技術文献 特開 2 0 0 3 - 2 4 4 0 9 8 号公報
 特開 2 0 0 3 - 2 3 4 7 7 1 号公報
 特開平 2 - 5 2 5 3 5 号公報
 特開 2 0 0 4 - 4 8 4 7 7 号公報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第四部 伝送システム

角田 慎治

TEL. 03(3581)1101 内線3535

FAX. 03(3501)0699